

2023年3月期

決算説明資料

2023年5月12日

2023年3月期 連結決算概要

2022年度実績

- 海外での貨物取扱い好調に加え円安が影響 ↑
- 国内は、船内作業は減少したものの、沿岸作業および倉庫保管が増加 ↑
- 海外は売上増加に伴い増益であったものの、国内での外部倉庫利用割合増加やエネルギー価格上昇に伴う燃料動力費増加等によるコスト増で、連結減益 ↓

来期予想

- 物価高および人件費上昇の価格転嫁を進めていくものの、海上および航空運賃の下落や海外での貨物取扱量減少を見込み、減収を予想 ↓
- 減収に加え、当期同様にコストの高止まりが予想され、減益を予想 ↓
⇒ 経営・業務執行体制見直しおよび営業部門改編等の施策により収益向上を目指す
- 最終減益を予想するが、配当性向25%を目安に2円増配予定 ↑

	2021年度		2022年度		前期比 増減		2023年度 通期予想	
	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	増減率	金額 (百万円)	前年実績比
■ 売上高	81,273	100.0%	84,101	100.0%	+ 2,827	+ 3.5%	79,000	△ 6.1%
■ 営業利益	6,458	7.9%	6,247	7.4%	△ 210	△ 3.3%	5,000	△ 20.0%
■ 経常利益	7,095	8.7%	6,959	8.3%	△ 135	△ 1.9%	6,250	△ 10.2%
■ 親会社株主に帰属する 当期純利益	4,624	5.7%	4,641	5.5%	+ 16	+ 0.4%	4,300	△ 7.3%
■ 1株当たり配当金	31.5円		34円		+ 2.5円	+ 7.9%	36円	+ 5.9%

部門別売上高および主な増減要因

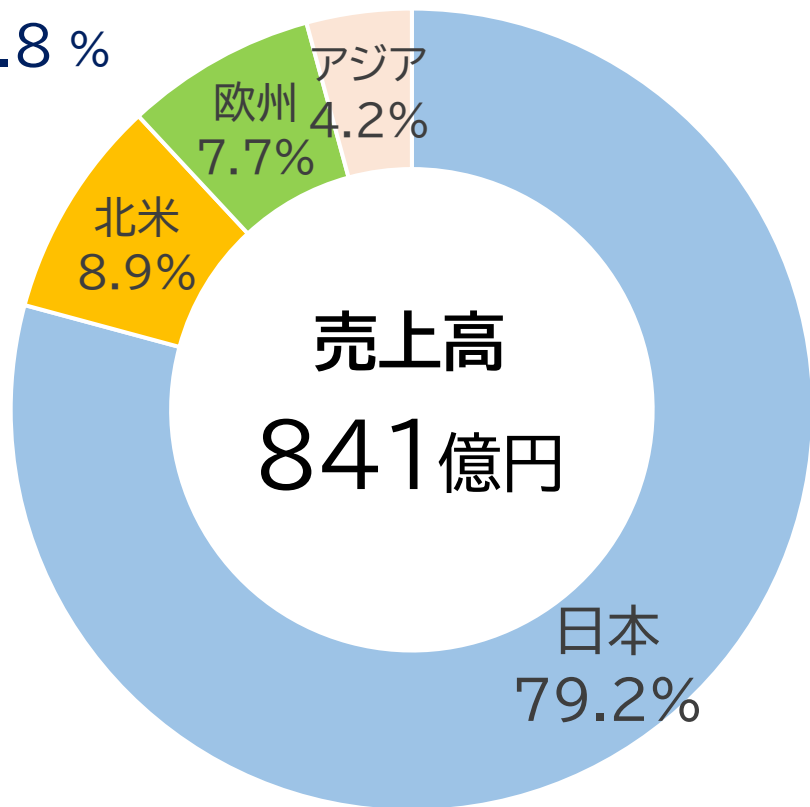
(単位:百万円)

セグメント	部門名	2022年度 (前年同期比)	主な増減要因
港湾運送 および その関連	港湾運送部門	50,916 (+2,909 / +6.1%)	<ul style="list-style-type: none"> 船内作業は減少したが、沿岸作業が増加 海外での貨物取扱い好調に加え、円安が影響
	倉庫保管部門	11,228 (+1,551 / +16.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 国内長期保管貨物の増加 海外での貨物保管増加
	陸上運送部門	12,610 (+370 / +3.0%)	<ul style="list-style-type: none"> 自動車や鋼材を中心とした内国貨物輸送の増加 欧州域内輸送の増加
	航空貨物運送部門	3,812 (Δ2,075 / Δ35.3%)	<ul style="list-style-type: none"> 物流混乱の解消に伴い、緊急輸送需要が低下して海上輸送へシフト
	その他の部門	3,814 (+16 / +0.4%)	<ul style="list-style-type: none"> 前第3四半期よりタンク事業を開始し、本年1月より新施設稼働開始 梱包作業の増加
		82,381 (+2,771 / +3.5%)	
賃貸		1,719 (+56 / +3.4%)	<ul style="list-style-type: none"> オフィス賃貸面積の増加

連結業績 エリア別割合

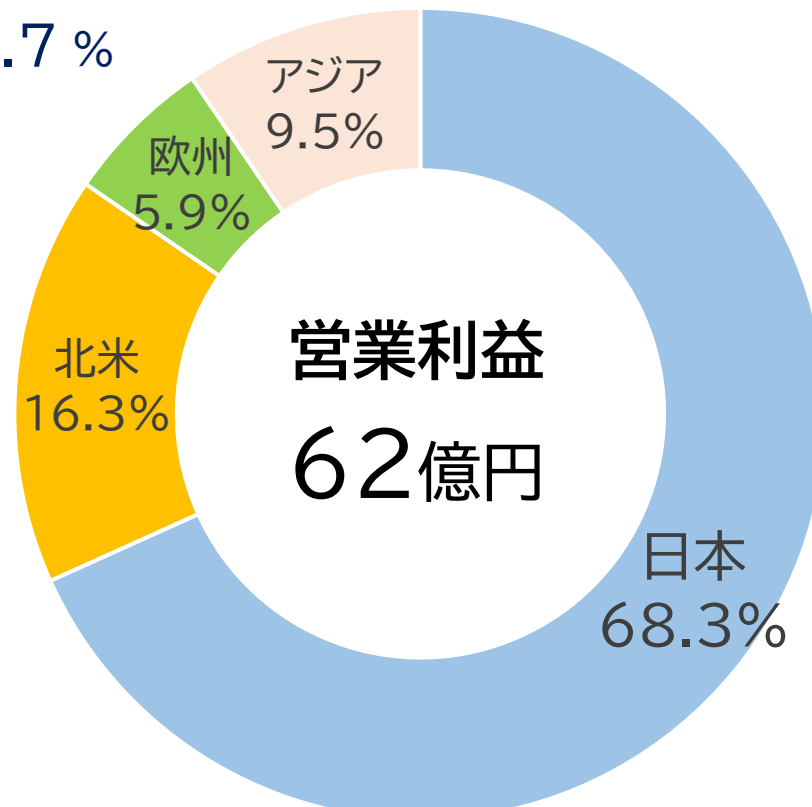
海外割合

20.8 %

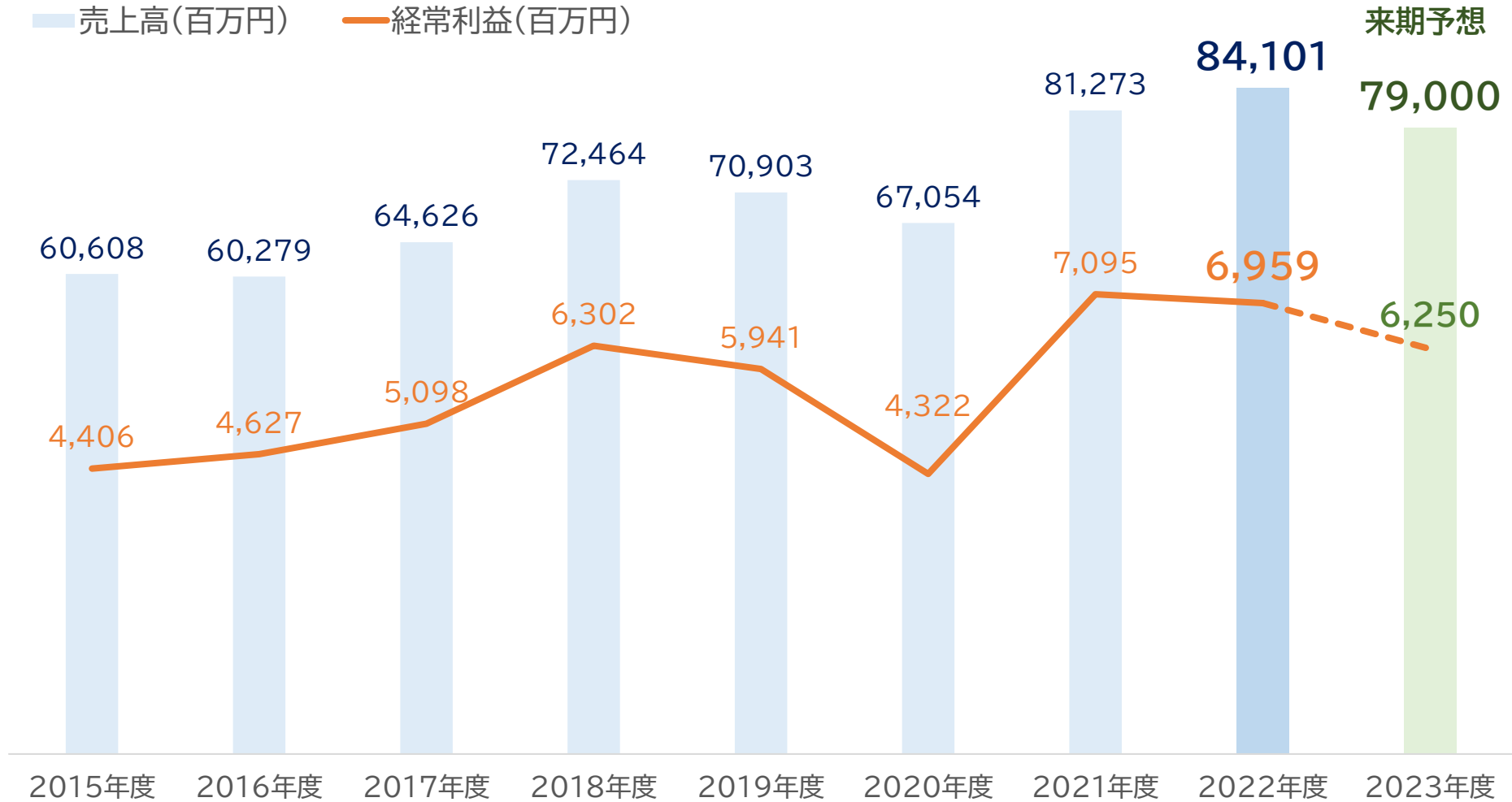


海外割合

31.7 %

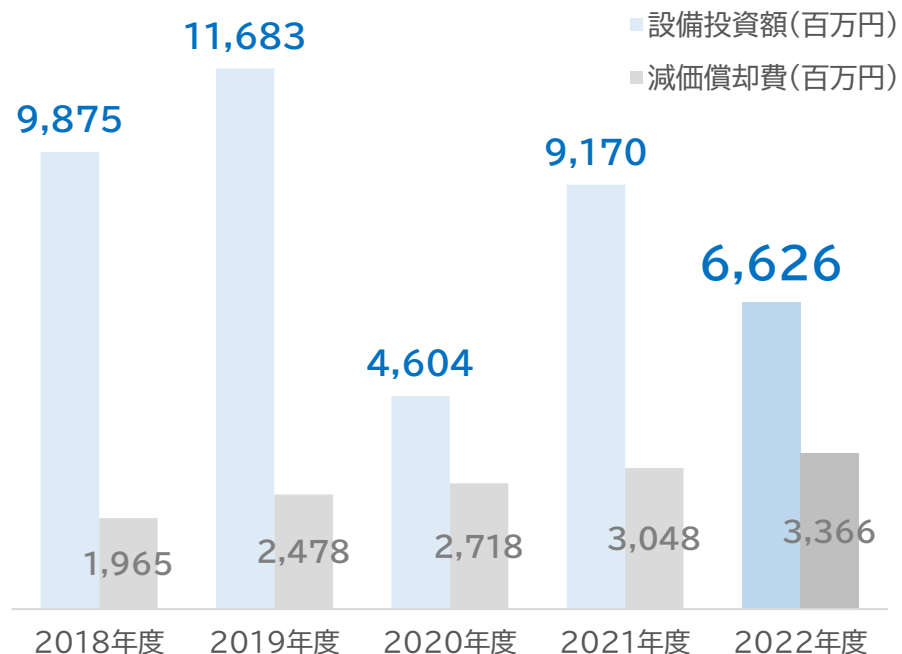


連結売上高および経常利益の推移



設備投資の推移

- 国内および海外において、減価償却費を上回る設備投資を継続的に実施し、物流事業の拡充を図っています
- 引き続き、名古屋港 東側エリアの老朽化した倉庫の再編や顧客ニーズを捉えた海外や内陸拠点の拡充を検討し、施設新設時には当社のサステナビリティ方針に基づいて、環境への配慮とBCP体制強化に取り組んでまいります



当期の主な設備投資

2022年5月竣工

西二区物流センター 危険品倉庫 (愛知県飛島村)

需要が高まっている危険品保管に対応するため、危険品倉庫2棟(内1棟は温度調整機能付き)を増築。



2023年1月竣工

名港タンクデポ (三重県木曾岬町)

液体輸送用のタンクコンテナおよびタンクローリーの洗浄や保管、メンテナンスを行うタンク事業を2021年10月より開始。最新設備を整えた新規拠点を開設。※詳細次ページ



名港タンクデポ 俯瞰図

タンクコンテナに関する各種作業を
ワンストップで行います！

修理棟

天井クレーンを備え、
タンクコンテナの
修理・改造・塗装を行います。

検査棟

タンクコンテナの気密・水張検査や
内部研磨を行います。

タンクコンテナ保管ヤード

タンクコンテナを690基保管できます。

事務所

チェックゲート

屋外危険物貯蔵所

危険物が入ったタンクコンテナを
24基保管できます。

屋外毒劇物貯蔵所

毒劇物が入ったタンクコンテナを
6基保管できます。

洗浄棟 / メンテナンス棟

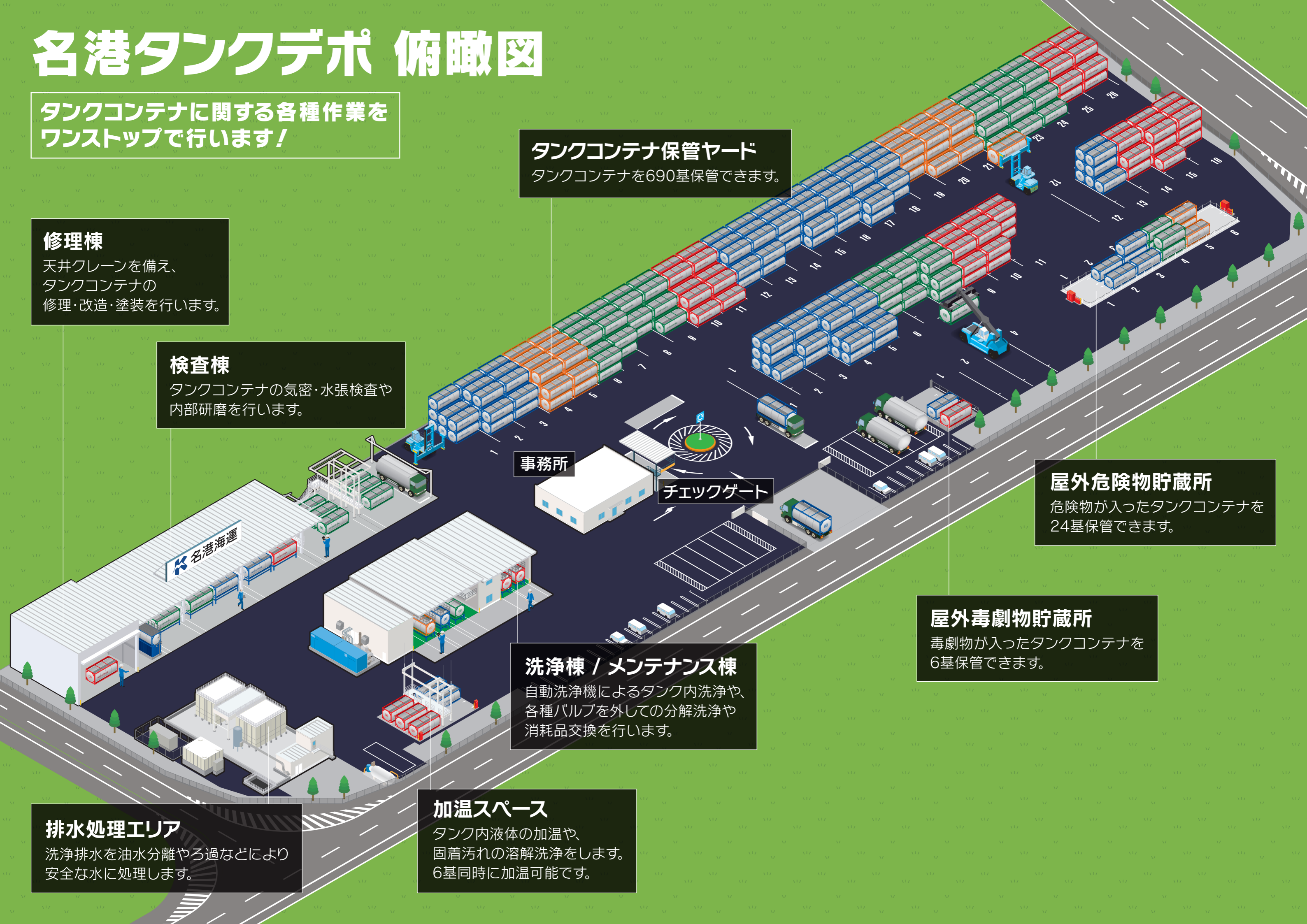
自動洗浄機によるタンク内洗浄や、
各種バルブを外しての分解洗浄や
消耗品交換を行います。

加温スペース

タンク内液体の加温や、
固着汚れの溶解洗浄をします。
6基同時に加温可能です。

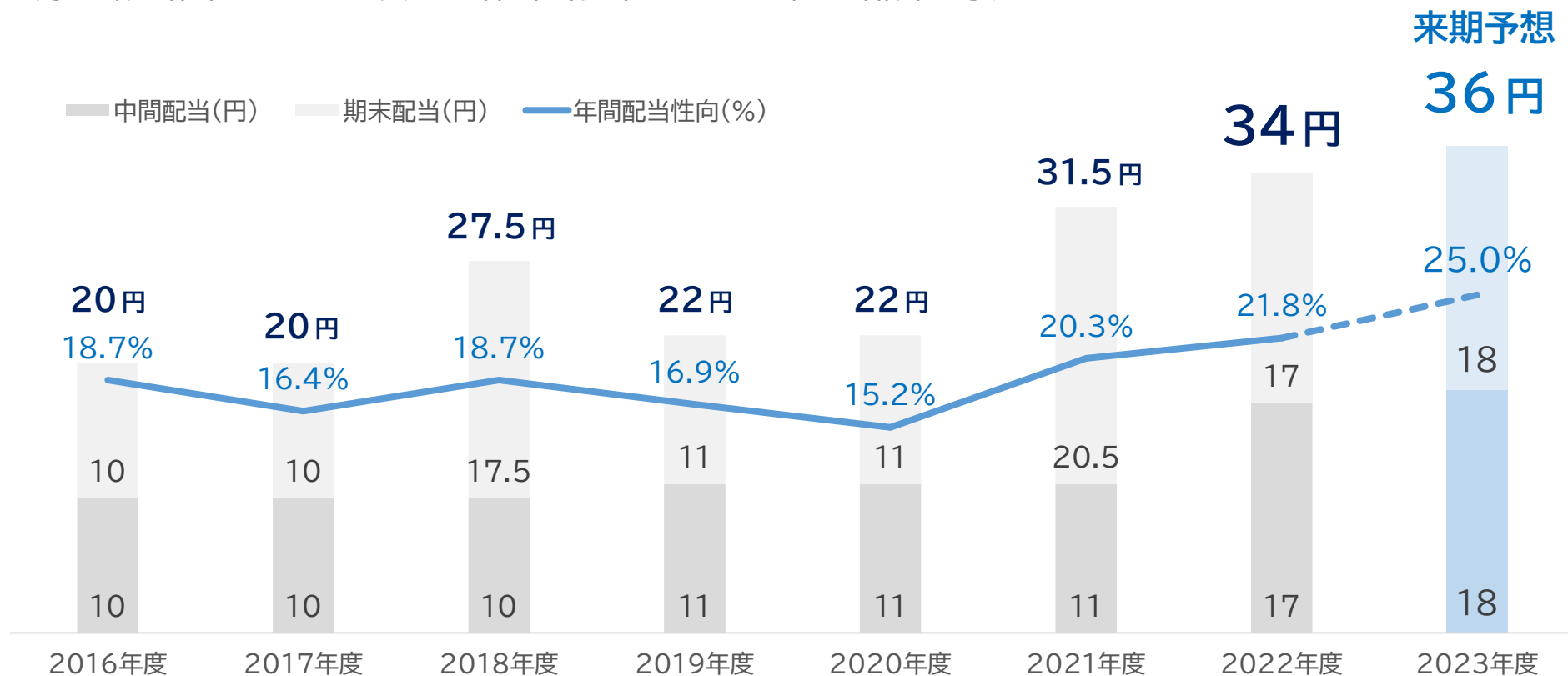
排水処理エリア

洗浄排水を油水分離やろ過などにより
安全な水に処理します。



配当金および配当性向 推移

- 当社は、将来の事業展開や設備投資、大規模災害等への備えとして内部留保の充実を図りつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としております
- 来期は減収減益を予想しておりますが、経営・業務執行体制見直しおよび営業部門改編等の施策により収益の確保に努め、配当性向25%を目安に、1株当たり配当金は 36円(2円増配)を予定しております



※2023年度の中間・期末配当、年間配当性向は予想値

データセンター移転

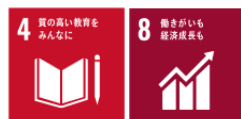


災害時に早期復旧できる強靱なインフラ整備のため、2ヶ所のデータセンターにシステム基盤を分散配置し、業務を停止させない環境を構築しました。

施設は免震構造で非常用発電機を備え、ネットワークが強化されているだけでなく、冷却技術や自然エネルギーの活用により省エネルギーが実現されています。

重要な事業データを守るとともに、有事の際にもお客様の事業継続(BCP)を物流面でサポートできる体制を整えています。

デジタル人材研修スタート



DX推進が重要と言われる中、ICTに精通した人材の育成を図り、変化に強い企業体質を築くとともに、将来にわたり競争力を確保していくため、デジタル人材育成研修をスタートしました。

第1期受講生として、31名が参加しました。

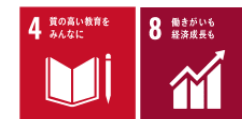
「みなとSDGsパートナー」登録

港湾および港湾関係産業の魅力向上と将来にわたる持続的な発展に資することを目的として国土交通省が創設した制度に2022年12月に登録されました。

SDGsの目標達成に貢献するとともに、より一層の会社の安定・成長を図ってまいります。



ファミリーデー開催



本社オフィスや当社物流センターにて、従業員の家族を対象としたファミリーデー(家族の職場見学)を開催しました。

本イベントは、「従業員同士お互いに大切な家族がいることを意識して尊重し合える職場環境づくり」、親の働く姿に触れて「子供が社会を知るきっかけづくり」を目的として、初めての試みとなりました。

引き続き当社は、従業員の働きがいの向上、ワークライフバランスを推進することで、働きやすい職場環境づくりを推進してまいります。



【ご注意】

当資料は、名港海運株式会社(以下、「当社」という)へのご理解を深めていただくことを目的として、当社が作成したものです。

当資料に記載されている将来にわたる事項については、2023年5月12日現在において入手している情報に基づいて、当社が予測および判断したものであり、様々なリスクや不確定要素に左右され異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。当社は、これら将来にわたる事項について、内容の確約・保証および情報を訂正する一切の義務を負いません。

投資・その他のご判断については、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

TOTAL LOGISTICS PARTNER

 **MEIKO TRANS**